

震災後の新憲法制定とネパールの試練

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

2015年9月20日、第一期制憲議会から7年を経て、ようやくネパールに憲法が制定された。長い間待ちに待った憲法制定である。新しい7州の連邦で構成され議会制民主主義に基づく非宗教的連邦共和国が誕生することになる。また新しい憲法の制定に伴い100以上の法律の改正が緊急に法制化される必要があり残された手続きは山積している。

州の区分方法をめぐり与野党が対立していたが震災を機に憲法策定を急ぐことで合意した結果だった。震災では政治の混乱が救助活動を遅らせ、被害を大きくしたと批判されていた。政府は憲法制定により内政の安定につなげ、約9千人の死者、多くの被災者を出した4月の大震災からの復興に本腰を入れたい考えだ。しかし、州の区割りの問題などで南部タライ地区のタルー、マデシなどインド国境の住民の反発が激しく多くの死傷者がでている。

ネパール、タライ地区の暴動が激しくなったことを受けてインド側は国境の税関業務を閉鎖した。

国境沿いでは1000台を超すトラックが渋滞していて、特にガソリンなどの石油製品はIOC（インド石油公社）が安全確保などを理由に供給を拒否しておりネパールの燃料事情は切迫している。

表向きの報道の裏にはインドの内政干渉があり、事実上の経済封鎖である。インドとの関係は何か事があると国境が閉じられてしまい、物資が入らなくなる。震災からの復興を急がなければならないこの時期に手痛い現状である。国境税関での渋滞により、インドからの野菜、果物は腐ったものが入ってきている。

カトマンズ盆地ではガソリンの不足から、車、バイクはナンバープレート末尾番号の奇数、偶数に分けて運転する規制

を発表した。1週間にバイクは3リッター、一般車が10リッター、営業車は1日おきに10リッターなどの規制がかかっている。

その結果、下記写真のような住民同士の助け合いが生まれている。



左<バイクの前面にメッセージを貼り

走行する女性>

Kuleswor ⇔ Purano bus park jaanako laagi Ma sahayog garna sakchhu
クレソールからプラノ・バスターミナルへ行くために、私は協力することができます。

右<フェイスブックに載ったメッセージ>

Hospital baata biraami laai ghar jaanakaa laagi gaadi aawoshek bhaeko khanda maa 985107978 maa samparka garnu holaa, upatyakaa bhitra, - gauri thapa

病院から病人を家まで連れて行くのに車が必要であれば985107978に連絡下さい。しかし盆地内。ガウリ・タパ

極端な燃料不足から規制は意味のないものとなって解除された。燃料費の高騰は天井知らず、闇価格で1リッター500ルピー（500円以上）で買っている住民もいる。平時では104ルピーであった。

今までの偏った政治が今、国民を苦しめている。国際社会が手を差し伸べてくれた地震への支援を無駄にしないためにも政府には内政、外交を上手くまとめてほしい。